

(2)今、子どもの数が各学校とも平成22年度から多くの複式学級が考えられますので、今後一貫教育について研究してゆきたいと思います。

現在、通学路になっている江田川河川敷の防犯灯について

問 現在河川堤防が通学路となっている。萩原―中原入口線が防犯上危険と考えられますので防犯灯設置の考えはないか。

答 現地、現場を調査して対応してゆきたいと思います。



北原 芳史議員

合併特例法に伴い3月にスタートした和水町の基本方針について

問 道路整備を今後どの様に取り組むか伺う。

答 町民が役場や交流施設、

医療施設へ安全でしかも快適に利用できる道路整備を行ない、更に利便性の向上を図る必要があると考える。

今後、計画路線については、早急に検討を行なう。

問 幹線道路の整備の優先順位をどう考えているのか伺う。

答 町道は町民の日常生活にとつて最も身近な生活関連としての一躍を担い、地域の経済活動の根幹を支える基盤施設として、大きな役割を果たしている。この様なことから、事業の必要性、緊急性や効率性等を考慮し決定している。



中林橋

問 県道の和仁菊水線、ここをまず優先的に取り組む必要があると思うかが伺う。

答 執行部においていろいろな形で協議しながら、進めてまいります。

本年度は補助事業で二路線を行なっております。

地域づくりについて

問 地域づくり、町づくりをどの様に進めていくか伺う。

答 町民の様々な活動により地域を住みよいものにしようという活動によつて作り上げられるものと考えている。

生活に欠かせない基盤システムづくり等、町民の自主的、主体的な取り組みや活動に対して、行政としては積極的に支援をして行く。

問 町づくりについて、既に旧三加和町では26行政区がある中、八つの里づくりを進めているが、和水町として、今後どの様に取り組んで行くか伺う。

答 自治区、一つの集落、組織としては、良く検討して菊水地域にも導入していきたい。

問 子ども達が町を誇りに思える町づくり、人づくりについて、教育はどの様に進めていくのか伺う。

答 若者が活気が出る町づくりに努力して行く。



古閑 修一議員

道路整備について

問 アクセス道路及び県道、町道の整備計画はどのようになっているのか。

答 アクセス道路については早急に整備をしたい考えである。県道、町道については、旧菊水地区で松下電器入口三叉路の右折レーンの増設の他、町道五路線を計画している。旧三加和地区では、津田、上十町の単県事業の継続と中林橋の他、改良、舗装二路線を計画している。

問 玉名八女線における和仁地区の鬼丸橋は、どのように

なっているのか。

答 大変苦慮しているが、仕切直しをして、早急に何らかの方法で取り組んでいきたい。

農業問題について

問 担い手に対する補助事業の内容と、今後の取り組みとしてどのように考えているのか。

答 農地流動化事業補助金の活用と、JA生産部会の活動に対する助成など、今後担い手育成総合支援協議会の設置について計画であり、早急に整備して、それを核にして農業振興に繋いでいきたい。



いちご部会総会開催

肥後元氣村、菊水ロマン館について

問 現在、町がそれぞれの会社に管理運営を委託しているが、今後どのように考えているのか。

答 肥後元氣村については、第八期決算で七百三十五万円の赤字となったが、新体制の元、心機一転、一身につくる。

問 菊水ロマン館について、定時株主総会での決議承認がなされていない決算を全協で報告されたのはいかがなものか。

答 常識的に、会社のルールからして間違っていたと判断をしている。

問 肥後元氣村をこのまま管理委託でやっていくのであれば、定款を変え、議長、副議長、区長会長その他各種団体の代表者を株主総会に加え、その方々に議決権を与えてはどうか。

答 その件に関しては、取締役会で検討をする。

助役、収入役について

問 合併後3ヶ月余りが過ぎたが、いつ頃までに選任をされるのか。

答 現時点では白紙であるが、9月頃まで何とか考える事が出来るのかな、そういう思いである。

問 旧菊水町の場合のように助役を決め収入役兼務という形でいくのか。

答 重要なことなので、真剣に考えていく。

問 地方自治法一六八条により助役の収入役兼掌が示されているが、そうした場合執行権という権力の集中になりはしないかと懸念をしている。

助役の選任については、町民の関心事でもあり合併後の一刻も早い町政の円滑な運営を考え、場合、例えば県の方に相談されるのも一つの方法ではないかと提案申し上げ質問を終わります。



森 恵子議員

産業廃棄物最終処分場建設計画（南関町下坂下）について

問 南関町の建設候補地とはいえ、内田・長小田地区住民への影響は大。南関町長へ、慎重に検討するよう申し入れる意志はないか。

答 情報収集を心がけ、住民の意志を尊重して取り組んでいきたい。議会や議員の皆さんの応援をお願いしたい。

ごみ処理と再資源化の推進と環境保全意識の啓発について

問 生ごみが可燃ごみに入っている理由と、堆肥化できない理由は。

答 生ごみ処理機の購入に一部助成金を出すなどしているが、大規模に堆肥化するコストがネックになっている。

近隣町と相談しながら、バイオマスセンター事業など勉強したい。

問 プラスチック製品がリサイクルルごみの中に含まれず、燃えるごみとして出されている理由。

答 プラスチックを焼却炉の助燃のために使っているのが現状だ。他の焼却場も同様と聞く。分別が十分可能になれば、将来は可燃ごみと分別することも可能だろう。

問 ガラスびんの色別収集をやめた理由は。

答 岱明町に合わせた。ただ、最終的にはびんは色別に仕分けして再利用されていると聞いている。

問 野焼きと不法投棄の監視について

答 発見に努めているが、住民からの連絡に因るのが一番多い。町外からの不法投棄もあり巡回を続ける。

問 環境学習の推進と環境保全啓発について

答 家庭科、理科、総合学習等で環境教育を行っている。小中学校ではリサイクル活動、

環境ISOの取り組み等も実施している。

問 環境美化活動の推進について、現在の活動状況は。

答 6月の環境月間に合わせて旧三加和では、各行政区単位や八つの里づくり協議会で河川の草切り、県道脇に花などの植栽、空かん拾い等を実施、旧菊水町では清掃作業等が行われていると聞いている。環境問題については、より多くの住民が関心を持つ活動推進が必要。



環境美化活動

問 地球温暖化防止対策について、町内ではどのような実施